

**ウィーン美術史美術館とパートナーシップを締結**

TBS テレビは10月8日、オーストリア・ウィーン美術史美術館と10年間のパートナーシップを結ぶことに合意しました。



合意署名後の TBS テレビ井上会長とサビーネ・ハーグ総館長
ウィーン美術史美術館「ブリューゲルの間」

ウィーン美術史美術館は、ルーヴル、プラドと並ぶ欧州 3 大美術館のひとつで、13 世紀に勃興し、600 年以上もの長きにわたりヨーロッパに君臨した名門王家・ハプスブルクの至宝など数十万点を所蔵しています。「バベルの塔」や「雪中の狩人」など世界最多を誇る12点のブリューゲルのコレクションをはじめ、フェルメールの「絵画芸術の寓意」などの北方絵画、ラファエロの「草原の聖母」などのイタリア・スペイン絵画を含むおよそ7,000 点の名画、その他エジプト・オリエントコレクション、彫刻、貨幣コレクションなど合わせて76 万点にも及ぶ作品を所蔵しています。ウィーン美術史美術館とその関連施設の年間入場者数は135 万人にのぼり、そのうち1 割弱が日本人で、ウィーンを訪れる日本人観光客にとって魅力的な文化施設のひとつとなっています。

このパートナーシップにより、TBS テレビは同美術館が所蔵する美術品や建物の保全修復やコレクションアイテムの拡充を支援するとともに、日本語のオフィシャルウェブサイトやガイドブックの作成など、日本人向けのサービス向上にも協力します。こうした文化的・社会的な貢献を長期的に行い、世界最高峰の美術作品の数々を日本のより多くの皆様に紹介することを目指します。

日本で今後 10 年の間に 3 回程度の展覧会を開催する運びで、1 回目は 2016 年から 17 年に、国立西洋美術館(東京)と国立国際美術館(大阪)で「クラーナハ展」(仮称)を予定しています。

以上